

合宿支援活動に明治も参加へ

高校生アスリートに「栄養セミナー」

今夏、健康・スポーツ教育研究センターが水上村の準高地クロスカントリー施設「スカイヴィレッジ」を拠点に行うアスリート合宿支援活動に、大手食品メーカーの明治が参加することになり、8日（金）、同社幹部が本学を表敬訪問しました。

支援活動は、同センター発足前の昨年度から松原誠仁副センター長（リハビリテーション学科理学療法学専攻准教授）らのチームが取り組んでいるものです。本年度は、7～8月にかけて3回にわたって行い、高校駅伝の強豪、九州学院高や大牟田高など計19チームと実業団2チームが参加する予定です。明治は、高校生を対象とした2回の合宿に同社所属の管理栄養士を派遣し、選手や指導者を対象にしたスポーツ栄養セミナーを開きます。

8日は、同社執行役員の中島聡ソリューション部長ら3人が来学し、木下統晴理事長、竹屋元裕学長ら本学幹部と懇談。中島部長が、大リーグ、エンゼルスの大谷翔平選手やカブスの鈴木誠也選手など、数多くのトップアスリートやチームを担当した経験を持つ管理栄養士・大前恵さんを派遣することを明らかにしました。

また、中島部長は、本学と水上村が結んだ包括協定にも興味を示し、「まずは一步踏み出し、その後、包括契約なども考えられる」と、将来の産学官連携による新たな事業展開の可能性にも言及しました。

懇談後、一行は松原副センター長らの案内で、アリーナ内に開設されたばかりのアスリートゾーン、フィットネスゾーンなどを見学しました。第1回合宿は7月27日（水）に始まります。



本学幹部と懇談する明治の中島聡ソリューション部長（左から2人目）ら

コロナ対応レベル「3」に引き上げ

感染者の急増受け危機対策本部

全国的に新型コロナウイルス感染者が増加傾向に転じる中、本学でもほぼ毎週、新規感染が報告されています。本学危機対策本部（本部長・竹屋元裕学長）は11日（月）、独自基準の対応レベル（5段

階）を2から3に引き上げました。これにより、遠隔授業が50%以上となり、課外活動も原則禁止となります。

今回のレベル引き上げについて、竹屋本部長は「熊本県の感染者数が過去最多となり

ましたが、本学でも学生・教職員の感染者が急増しています。マスク着用や手指消毒などの感染防止対策を徹底するとともに、飲食時は黙食を徹底して欲しい」と話しています。

12大学 一堂に会し「進学ガイダンス」

大学コンソーシアム熊本に加盟する12大学が一堂に会し、高校生や保護者に各大学の魅力をPRする「進学ガイダンスセミナー2022」が10日（日）、熊本市の崇城大学で開催されました。各大学の教員による模擬授業を行ったほか、大学ごとに設けられた進学相談コーナーでは、教職員が生徒たちの疑問や悩みを答えていました。

同セミナーは、各大学が企画するオープンキャンパスのプレイベントと位置付けられています。新型コロナウイルスの感染拡大により、一昨年度は中止、昨年度はwebのみで実施され、対面での開催は3年ぶりです。

模擬授業では、本学から飯伏羲弘教授（医学検査学科）と松原誠仁准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）が教壇に立ち、計26人の高校生が耳を傾けました。飯伏教授は、音とは何かということから説き起こし、超音波検査（エコー検査）の原理や実際をわかりやすく解説しました。また松原准教授は、オリンピックとパラリンピックを例に挙げながら、スポーツ分野も含め多様化する

理学療法士の役割や将来の可能性について語りました。

一方、本学の進学相談コーナーには生徒、保護者計5人が訪れ、担当者からの説明を熱心に聞きました。

本学のオープンキャンパスは7月17日（日）、8月21日（日）、9月4日（日）に行われます。（安部悠介）

模擬授業で魅力PR



高校生に模擬授業をする飯伏教授



BLS (Basic Life Support)部

杉本薫部長（看護学科2年）、45人

一次救命措置の普及めざし研鑽の日々

BLS (Basic Life Support) 部は、一次救命処置の普及を目的に活動している学内クラブです。外部講師を招き専門性の高い技能の習得を行っているほか、杏祭では来場者に向けたワークショップを開催したり、マラソン大会でAED隊を務めたりしています。

4日（月）には、日本赤十字社救命救急指導員を講師に講習会を開き、チームでの一次救命活動に必要なことや他者に説明する際のポイント、三角巾を使った応急処置などを学

びました。BLS部員として、「教える側」の視点を重要視し一般の人たちに分かりやすく伝えるスキルを身につけることが出来ました。

後期には、ワークショップやマラソン大会と実践の場が多くあるため、今回学んだ事を日々の活動に反映し、実践の場面で発揮できるように努めていきます。

（リハビリテーション学科理学療法学専攻・岩下佳弘）



講師の指導で三角巾を用いた
応急処置を学ぶ部員たち

頑張ってます!

OB・OG訪問

本学理学療法学専攻OBの坂井光さん
(33) = 写真 = は、医療機関や一般企業に勤務した後、2019年に会社を設立し、訪問看護ステーションなどの運営をしています。自立心にあふれる坂井さんから、後輩に向けメッセージを寄せてもらいました。

株式会社rectus代表取締役 坂井 光さん (33)



貴重な大学4年間 大切にしたい 視野、情報、人脈

熊本保健科学大学保健学科理学療法学専攻第1期生として、4年間理学療法士になる勉強、経験を大学で行ってきました。熊本県、福岡県の医療機関にて超急性期から回復期、維持・生活期まで理学療法士として経験させて頂き、その後医療系のシステム会社にシステムエンジニアとして入職、2年間人工知能を踏まえたシステム開発に従事していました。現在は熊本市北区で株式会社を立ち上げ、

「訪問看護ステーションラピレス」と「mahiro助産院」を経営しております。

熊本保健科学大学での4年間は今の私の基礎を作ってくれて、その時の友達、仲間と現在の会社を立ち上げています。私が今、皆様にお伝えしたいことは貴重な大学4年間「視野」と「情報」と「人脈」、この3点を本当に大切にしてほしいということです。

大学時代は良くも悪くも多くの時間が手に入ります。その中で得た経験による「視野」の広さ、「情報」の引き出し、「人脈」は将来必ず生きるものであり、もし大学時代に戻

れるのであれば、もう一度かき集めたいものでもあります。そして、できることならば大学時代に起業をしていればよかったと思うばかりです。

学生でも社会人でも先入観、固定観念に囚われることは非常に怖いことです。「リハビリを学んでいるから絶対リハビリの世界で頑張らなきゃ」、「学生だから会社なんて作れない」、自分自身で自分の考えにストップをかけていませんか。あくまで仕事、職業は手段です。今から学ぶ学生さんたちが人生で何をしたいのか、どうなりたいのか、学生の時間を目一杯使って、学生時代では見つからないなら社会人になって見つけてみてください。

今勉強していること、得た経験は社会人になって必ず役に立ちます。それを少しでも増やすか増やさないかは自分次第です。皆様が熊本保健科学大学で得た全てを社会や医療に還元してくれることを心から応援しています。



看護学科

大澤 早苗准教授



“鉄紺”ファンの矜持

運動はほとんどしないのに、駅伝観戦が好きです。特に大学駅伝。13年前に現れた柏原選手に衝撃を受け以来、大の鉄紺（東洋大学）ファン。秋から始まる三大駅伝ではレースの度に一喜一憂し、1月3日の箱根駅伝終了時には抜け殻のようになるのが常です。

人生で泣くことなんて限られているのに、駅伝の度に自分や仲間のために涙し、くやしさを糧に強くなっていく選手たちの凡事徹底の日に、「成功も必然、失敗も必然」なのだと思ふと尊敬の念を抱きます。

なかでも、鉄紺指揮官の「陰日向のない努力」という言葉が好きで、行動指針にしています。「人が見ている見えていないではなく、見られていない部分で、どんな心構えでいるのかが大切。結局そこは人が見ているし気づく。そういった後ろ姿に人はついてくる」と。

看護を教える際にも、自分自身が日々の暮らしを愛しみ大切にしているのかと自問しています。そして、最近は観ているだけで不足していた運動を、「運」を「動」かすために始めてみようかと思案中。何が起こるだろうかと、少しだけワクワクしています。

17日にオープンキャンパス

本年度第1回のオープンキャンパスが17日（日）に開催されます。

今回は「自分×未来」をテーマに、各学科専攻による模擬実習のほか、入試・進学相談コーナーや奨学金・アパート相談コーナー、ピアサポによる「先輩と話してみよう」、「施設見学ツアー」、「1年次ゼミ『基礎セミナー』について知ろう！」も準備しています。

オープンキャンパスは、8月21日（日）と9月4日（日）にも行われます。（入試・広報課）



週間行事予定（7月16日～7月22日）

7 / 16 (土)	選書ツアー
7 / 17 (日)	オープンキャンパス
7 / 21 (木)	学術講演会